

「いじめ防止基本方針」

平成26年3月25日策定

令和2年3月 1日改訂

令和5年4月 1日改訂

基本方針

青ヶ島村教育委員会「いじめ防止基本方針」に基づき、青ヶ島村立青ヶ島小学校ならびに青ヶ島村立青ヶ島中学校は、「学校は、子供にとって楽しいところ、決して、辛くて悲しいところであってはならない」を合言葉に、「いじめは絶対にしない、させない、許さない」という強い姿勢で臨む。

I いじめの定義（いじめ対策推進法より）

1 いじめの定義（第2条）

児童等に対して、当該児童等が在籍する学校に在籍している等当該児童等と一定の人的関係にある他の児童等が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であって、当該行為の対象となった児童等が心身の苦痛を感じているものをいう。

2 学校及び学校の教職員の責務（第8条）

学校及び学校の教職員は、基本理念にのっとり、当該学校に在籍する児童等の保護者、地域住民、児童相談所その他の関係者との連携を図りつつ、学校全体でいじめの防止及び早期発見に取り組むとともに、当該学校に在籍する児童等がいじめを受けていると思われるときは、適切かつ迅速にこれに対処する責務を有する。

II いじめ防止のための本校の施策

1 いじめに対する基本的な取組

- （1）「いじめ」はどの学校でも、どの学級でも、どの子にも起こり得るという認識をもつ。
- （2）人権侵害である「いじめ」を絶対に許さない学校をつくる。
- （3）いじめられている子供を徹底して守り通す。
- （4）いじめる子供に対しては、「いじめは人間として絶対に許されない」という認識を徹底させる適切な指導を行う。
- （5）「いじめ」を見て見ないふりをし、傍観者になることも「いじめ」につながることを教え、日頃から何でも伝え合えるよりよい人間関係作りを行う。
- （6）いじめの定義について教員、保護者が確認する機会を設け、地域や関係諸機関を含めた信頼関係作りと連携協力を努める。

2 早期発見に向けて

- （1）「いじめ」は、大人の目の届きにくいところで発生していることを意識し、校内で子供だけになるときは注意して見守り、学校・家庭・地域社会が全力で実態把握に努める。
- （2）月1回の心のアンケート、毎学期いじめについてのアンケート及び年間2回 hyper-QU 心理検査を実施するとともに、日頃から子供達の声に耳を傾ける。
- （3）教育委員会にいじめ問題への調査結果を知らせるとともに、報告・連絡・相談を円滑に行う。
- （4）授業中はもちろん、休み時間や放課後の子供達の行動を注意して見守る。
- （5）保護者や地域住民と情報を共有し、子供達の実態把握に努める。
- （6）地域の行事に積極的に参加し、地域との連携を深め、情報の共有に努める。

3 早期解消に向けて

- （1）「いじめ」の疑いを発見したら、学校いじめ対策委員会（管理職、主幹教諭、生活指導主任、養護教諭、特別支援コーディネーター、担任、スクールカウンセラー等）を開催し、いじめられている子供や保護者の立場に立ち、詳細な事実確認の方法や、即時的な対策など、迅速で適切かつ組織的な対応を行い、速やかな解消を目指す。
- （2）いじめる子供には、行為の善悪をしっかりと理解させ、反省・謝罪させる。
- （3）法を犯す行為に対しては、早期に警察・児童相談所等、関係外部機関に相談し協力を求める。
- （4）校長は事実に基づき、子供や保護者に説明責任を果たす。
- （5）「いじめ」が解消した後も、関係児童や保護者との面談や連絡を継続的に行い、道徳の時間等で、児童全体への指導を行う。

4 未然防止に向けて

- (1) 子供の自己実現が図られるよう、日々の授業や学級経営の充実を図る。
- (2) 道徳・特別活動を通して、規範意識やよりよい集団の在り方について考えを深め、他者に対する思いやりの心を育て、よりよい人間関係作りができるようにする。
- (3) 日頃から子供や保護者に対して悩みの解消を図るために、スクールカウンセラーを積極的に活用する。
- (4) 教師自身が子供を傷付けたり、他の子供による「いじめ」を助長したりすることがないように日頃から言葉遣いや行動に細心の注意を払う。
- (5) 教員研修の充実を図るとともに、いじめ相談体制、相談窓口の整備をする。
- (6) いじめ問題について、PTAや地域との連携を深め、「いじめ」を起こさぬよう、地域ぐるみの対策を行う。

5 学校いじめ対策委員会について

- (1) 開催は、ふれあい月間の時期に合わせて年に3回を基本とする。また、「いじめアンケート」の内容を検討し、必要に応じて臨機応変に開催する。全教職員の観察、児童からの訴え、保護者からの相談など、いじめの疑いや兆候が見られた場合など、必要に応じて臨時に開催する。
- (2) 学校いじめ対策委員会は、管理職、主幹教諭、生活指導主任、養護教諭、特別支援コーディネーター、担任、スクールカウンセラー等で構成する。
- (3) 年間開催計画

開催時期	内容
1学期 (4月)	<ul style="list-style-type: none"> ○前年度の様子等、児童情報の共有。 ○進級・入学に伴う適応状況の確認。 ○いじめの定義、本校でのいじめ未然防止への対応手順等について確認。 ○本年度の研修計画。
2学期 (9月)	<ul style="list-style-type: none"> ○長期休業明けの児童情報の共有。 ○児童・生徒、教員の人権感覚等について振り返りと点検。 ○いじめ未然防止に向けて2学期以降の重点等の確認。
3学期 (1月)	<ul style="list-style-type: none"> ○長期休業明けの児童情報の共有。 ○児童・生徒、教員の人権感覚等について振り返りと点検。 ○いじめ基本方針の見直し。

6 いじめの早期発見・早期対応のための取組

(1) 年間開催計画

1学期		2学期		3学期	
期日	活動内容	期日	活動内容	期日	活動内容
4月	校内研修会① ・いじめ防止基本方針について ・前年度、新年度の児童の様子、情報共有	9月	校内研修会② ・2学期の取り組みについて ・新学期の児童の様子、情報共有	1月	校内研修会③ ・3学期の取り組みについて ・新学期の児童の様子、情報共有 ・いじめ防止基本方針の見直し 教育相談週間③
5月	いじめに関する授業(道徳)	10月	いじめに関する授業(道徳)		
6月	ふれあい月間 ・いじめに関するアンケート① ・hyper-QU心理検査① 教育相談週間①	11月	教育相談週間② ふれあい月間 ・いじめに関するアンケート② ・hyper-QU心理検査②	2月	ふれあい月間 いじめに関する授業(道徳) ・いじめに関するアンケート③
7月	SNS東京ルールを活用した授業(学級活動)	12月	SOSの出し方に関する教育(学級活動:4年) SNSに関する諸注意(学級活動)	3月	今年度の振り返り 新入生の情報交換